

平成 29 年 2 月 大泉図書館指定管理者連絡調整会議 議事要録

日時	平成 29 年 2 月 23 日 (木) 8 時 50 分から 9 時 30 分まで
場所	光が丘図書館 視聴覚室
出席者	<p>(1) 光が丘図書館 (以下「光」)</p> <p>光が丘図書館長、管理係長、運営調整係長・係員 (2)、事業統括係長、子供事業統括係長</p> <p>(2) 大泉図書館指定管理者 (株式会社図書館流通センター) (以下「大」)</p> <p>大泉図書館長、同館業務従事者 (2)、本社スタッフ (2)</p>
内容	<p>① 施設管理について</p> <p>(光) 座席が満席で利用できないことがあるとの意見をいただいている。会議室を使用していない日の開放を検討してほしい。</p> <p>→ (大) 会議室が 2 階にあり目が行き届かず難しい点もあるが、今後検討していく。</p> <p>(光) 緊急対応マニュアルについて、4 月に担当者の異動があるため内容の見直しをお願いする。スタッフ全員がマニュアルを確認できるように設置をしてほしい。</p> <p>→ (大) 了解した。</p> <p>② 図書館システム・事業計画について</p> <p>(光) 練馬区立図書館ホームページの行事案内に参加者募集の掲載がされていないが。</p> <p>→ (大) 「憩の森のある暮らし体験講座 in 大泉」は、主催者の「みどりのまちづくりセンター」が広報をしているため掲載していない。現在は企画展示を掲載しており、次の事業はホームページ掲載の準備中である。</p> <p>→ (光) 行事实施報告のページも掲載がないため、ぜひホームページを活用してほしい。</p> <p>→ (大) 了解した。</p> <p>(光) 藤沢周平コーナーの展示が工夫されており内容も良かった。</p> <p>→ (大) 藤沢周平の故郷である「山形」にまつわる作品や研究書、「江戸の町」を題材とした市井作品とともに、作品ゆかりの場所を示した山形と江戸の地図を展示した。没後 20 年と区切りの年であり、藤沢周平生誕の地、鶴岡市で寒梅忌に参加し、各地の愛好会の方からコメントを集めている。今後、寒梅忌の参加日記をあげる等、活性化していきたい。</p> <p>(光) 昨年、除籍に関する基準を一部変更したことに伴い除籍数が増加し、区全体の蔵書数が減っている。望ましい状態ではないため、除籍基準の見直しを検討している。</p> <p>→ (大) 了解した。</p> <p>(光) 「障害者向け図書館利用ガイド」を作成し、大泉障害者地域生活者支援センターさくらに配布されているが、他の施設への配布は。</p> <p>→ (大) 関係施設の中で、館に近い大泉障害者地域生活者支援センターさくらに 20 部を配布した。東京都立大泉特別支援学校に掲示していただいたほか、年間を通して他の施設とも連携しサービスをしていく。</p> <p>→ (光) 今後も継続をお願いしたい。</p> <p>(光) 閉架貴重書の曝書について。</p> <p>→ (大) 会議室で日干しをし、風をとおして虫がどの程度ついているか点検をした。スタ</p>

ップが都立図書館の資料保存の研修に参加し、どの程度手をかけるか質問をした結果の報告も行った。

③ 児童サービス事業について

(光) 1月22日実施の事業「親子で楽しむ 声と身体の実現ワークショップと朗読会」について、図書館事業としてとても良い内容だったが、参加者が8組と少なかった理由は、

→ (大) 広報を開始したのが12月半ば過ぎであり、年末年始にかかったため広報期間が短かった。広報を見直していく。

→ (光) マルチメディアデイズを使ったことによる効果や反応は、

→ (大) プロジェクターを使用し、音声、音楽、色、動きが入っているため、読むだけではない楽しさがあつた。以前もマルチメディアデイズを展示したことがあるが、今後もイベントをとおして周知、利用促進をしていきたい。

(光) 2月に現地モニタリングを実施した。改善していただきたい点が2点あつた。1点目は、人気のあるシリーズ本、青少年向けの本の買い替えである。水濡れや汚れなど傷んだ本が多く見られた。光が丘でも見計らい購入により配置をしていくが、大泉でも購入を検討してほしい。2点目は、車輪のついた棚の耐震対策である。壁面固定も含めて検討し、対策を実施してほしい。

→ (大) 了解した。

(光) 大泉図書館オリジナル読書通帳について。

→ (大) 読書通帳は30冊記入できるようになっており、1月中に40人の子供に配布した。5人が30冊を達成し、おおちゃんといずみんのシールを貼った。今後も継続していく。

④ その他

(光) 利用者アンケートの結果について。

→ (大) 館の取り組みを認めてくれる方もいるが真摯に受け止めなければいけないものもあり、改善をしていく。行事の告知は不足しており、利用者全体の中で働きかけの足りない部分があつた。次年度の事業計画に反映し行事を通じて図書館を知ってもらい、本との出会い、利用につなげていきたい。職員の対応については、1月の館内整理日に本社で接遇研修を受講したものが講師となり、具体的な内容の接遇研修を改めて実施した。